

## 1. 総論

## 【総括判断】「管内経済は、持ち直している」

項目	前回（8年1月判断）	今回（8年4月判断）	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	→

（注）8年4月判断は、前回8年1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

## （判断の要点）

個人消費は、持ち直している。生産活動は、弱含んでいる。雇用情勢は、持ち直しの動きに一服感がみられる。観光は、緩やかに拡大している。

## 【各項目の判断】

項目	前回（8年1月判断）	今回（8年4月判断）	前回比較
----	------------	------------	------

個人消費	持ち直している	持ち直している	→
生産活動	弱含んでいる	弱含んでいる	→
雇用情勢	緩やかに持ち直している	持ち直しの動きに一服感がみられる	↘

設備投資	7年度は増加見込み	7年度は増加見込み	→
観光	緩やかに拡大しつつある	緩やかに拡大している	↗
企業収益	7年度は減益見込み	7年度は増益見込み	↗
企業の景況感	「下降」超となっている	「下降」超となっている	→
住宅建設	弱い動きとなっている	弱い動きとなっている	→
公共事業	前年を下回る	前年を上回る	↗

## 【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待されるものの、中東情勢や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。

## 2. 各論

### ■ 個人消費 「持ち直している」

スーパー販売は、総菜や冷凍食品などの飲食料品が堅調であり、前年を上回っている。コンビニエンスストア販売は、弁当や総菜などの飲食料品の需要が引き続き堅調であり、前年を上回っている。ドラッグストア販売は、季節品や化粧品が好調であったほか、インバウンド向けの販売も底堅く推移しており、前年を上回っている。百貨店販売は、インバウンド向けの販売が足下で回復基調にあるものの、1月の販売が低調であったことから、前年を下回っている。家電販売は、スマートフォンの売行きが引き続き好調であるほか、エアコンの売上げが増加したことから、前年を上回っている。ホームセンター販売は、大雪の影響により除雪用品の販売が伸びたほか、足下では園芸用品なども好調であり、前年を上回っている。乗用車販売は、新型車投入などから需要が堅調であるものの、納期長期化などの影響もあり、前年を下回っている。

(主なヒアリング結果)

- セールでの顧客の反応は大きく、節約志向は継続しているものの、即食簡便な総菜、冷凍野菜などは引き続き好調であるほか、減少傾向にあった買上点数も回復しつつある。(スーパー)
- 記録的大雪の影響で近隣の店舗を利用する顧客が増加し、調理負担の少ない弁当などの販売が増加した。また、雪解けが急速に進んだ3月には行楽機会が増加したことから、堅調な販売が続いている。(コンビニエンスストア)
- スキンケア用品など、季節品の売行きが好調であったほか、気温上昇に伴う外出機会の増加により、化粧品類の売上げが増加している。(ドラッグストア)
- 国内客は、食料品等を中心に堅調な販売が続いている。インバウンドは、中国人客が減少しているものの、足下では東南アジアからの来店が急増し、客単価も比較的高いため、売上げは回復してきている。(百貨店)
- 夏に向けて、エアコンの売行きは好調であり、寒冷地向けの暖房機能を備えた商品への買換え需要が伸びているほか、冷房専用商品の買増しの動きがある。(家電量販店)
- 日本海側を中心にまとまった降雪があり、スコップなどの除雪用品の売行きが良かった。また、3月は園芸用品や自転車の出足が好調であり、販売動向は堅調に推移している。(ホームセンター)
- 納期長期化の影響や環境性能割廃止前の買い控えが一部みられたものの、人気車種では高価格でも好調な販売が継続しており、消費マインドに特段の動きはみられない。(自動車販売)

### ■ 生産活動 「弱含んでいる」

生産活動は、「輸送機械」や「食料品」などが増加しているものの、「鉄鋼」などが減少しており、全体では弱含んでいる。

- 生産ラインの増設に加え、自然災害による海外工場停止の影響が解消したことなどから、好調な生産動向となっている。(輸送機械)
- 東南アジア、EU等から旺盛なホタテの需要が続いており、生産量は堅調に推移している。(食料品)
- 前期に発生した鋼材メーカーの高炉トラブルにより、引き続き生産が大幅に縮小している。なお、足下では稼働を再開し、平常運転に向けて動いている。(鉄鋼)

### ■ 雇用情勢 「持ち直しの動きに一服感がみられる」

雇用情勢は、人手不足が続く中、人件費増加等を背景として求人のに弱さがみられており、持ち直しの動きに一服感がみられる。

- 人手不足であっても、最低賃金の引上げの実施や賃上げによる人件費の増加等により、求人を控えるといった動きがみられていることから、一社あたりの求人数が減少し、全体的な求人数の減少につながっている。(公的機関)
- 北海道の運輸業に対する求職者の印象を変えるため、同業他社と合同で運転体験を実施している。また、キャリアリターンについても積極的に行うことで、人材確保につなげている。(運輸)
- 適正な人材配置のため、大型店のみではなく小型店においてもセルフレジを導入し、省人化を図ることで人手不足を解消している。(小売)

## ■ 設備投資 「7年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」8年1-3月期

- 製造業では、「食料品」などが増加していることから、全体では増加見込みとなっている。
- 非製造業では、「娯楽業」などが増加していることから、全体では増加見込みとなっている。

- 老朽化に伴う維持更新のほか、コスト削減を目的として、サプライチェーン全体の在庫管理を行うためのAIを導入した。(食料品)
- 都市開発の進展を背景に、来客数の更なる増加が見込まれることから、駐車場の整備を行った。(娯楽)
- 8年度は老朽化に伴う大型の設備更新や工場基幹システムの更改を行う予定のため、例年よりも設備投資額は高水準であるが、7年度に完了した主幹工場の改築等が剥落することから、前年よりも減少する見通し。(食料品)

## ■ 観光 「緩やかに拡大している」

- 観光は、来道客数が堅調に推移しているほか、外国人入国者数が前年を上回っており、緩やかに拡大している。

- 来道客数については、大雪に伴う欠航の影響により一時的に減少したものの、予約時点では前年を上回っており、需要は引き続き好調である。(運輸)
- インバウンドについては、台湾、マレーシア、タイからの観光客が増加したことに加え、欧米からの観光客によるウィンタースポーツ需要も高く、好調である。(生活関連サービス)
- 足下の予約状況も良好であり、インバウンド需要が引き続き高水準にあるほか、4月にも札幌で大規模ライブがあるなど、需要は底堅く推移している。(宿泊)

## ■ 企業収益 「7年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」8年1-3月期

- 製造業では、「輸送用機械器具」などが増益となっていることから、全体では増益見込みとなっている。
- 非製造業では、「農林水産業」などが増益となっていることから、全体では増益見込みとなっている。

## ■ 企業の景況感 「「下降」超となっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」8年1-3月期

- 企業の景況判断BSIは、全産業では「下降」超となっている。  
なお、先行きは、8年7~9月期に「上昇」超へ転じる見通しとなっている。

## ■ 住宅建設 「弱い動きとなっている」

- 住宅建設は、持家、分譲住宅は前年を上回っているものの、貸家は前年を下回っており、弱い動きとなっている。

## ■ 公共事業 「前年を上回る」

- 公共事業を前払金保証請負金額で見ると、第4四半期は、国、独立行政法人等、北海道、市町村いずれも前年を上回っており、全体でも前年を上回っている。

## ■ 金融 「貸出金残高は前年を上回る」

## ■ 企業倒産 「前年を上回る」

## ■ 消費者物価 「前年を上回る」